

若者視点で「矢掛と児島」二つのまちづくりを考えるラボ

ラボの課題

繊維のまち「倉敷市児島」と歴史や農業資源に恵まれた「矢掛町」
二つの特徴の違う地域で、実現可能なまちづくりのアイデアを創出すること

連携先

「矢掛」矢掛町、水車の里フルーツピア 他
「児島」倉敷市、児島産業振興センター、下津井シービレッジ 他

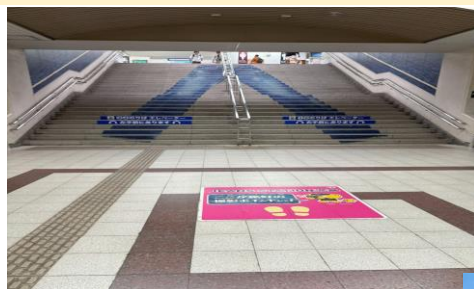
活動報告

児島の長所

- ・国産ジーンズをジーンズストリートだけでなく、駅やバスなどで観光客にアピールしている。
- ・風の道に春には桜、秋には紅葉、廃線などがあり、風景や歴史を楽しむことができる。

児島の短所

- ・風の道のある場所が分かりにくい。
- ・人口が減少傾向にある。



私たちが今後取り組みたいこと

- ・廃線を活用して、レールマウンテンバイクを設置する。
- ・電車をジーンズカラーにする。



今後の計画

「観光を意識しながら、
児島らしさを発信してい
きたい！」



担当教員：藤原美佳、張 善会、鷲見哲男
学生氏名（團、関元、長谷川、小崎）

若者視点で「矢掛と児島」二つのまちづくりを考えるラボ

ラボの課題

繊維のまち「倉敷市児島」と歴史や農業資源に恵まれた「矢掛町」
二つの特徴の違う地域で、実現可能なまちづくりのアイデアを創出すること

連携先

「矢掛」矢掛町、水車の里フルーツピア 他
「児島」倉敷市、児島産業振興センター、下津井シービレッジ 他

春学期の活動報告

<児島>

- ①倉敷市役所の職員の方々から今後の児島の計画についての講演を聴講
- ②児島産業振興センターの館長の上田さんから児島の歴史や現状、課題についての講演を聴講
- ③児島のまちなみを散策
- ④フィールドワークでの気づきを共有し、ブレスト・SWOT分析・クロス分析

ジーンズストリート

S (強み)

- ・30店舗を超えるジーンズ専門店が存在
- ・SNS映えスポット
- ・デニムに因んだ飲食店やグッズ等、ジーンズ以外にも豊富

W (弱み)

- ・ジーンズの値段が高く、学生等の若者には手が届きにくい



風の道

S (強み)

- ・レンタサイクル可能
- ・鷺羽山や瀬戸内海、桜の花のトンネル等様々な自然を感じられる
- ・通勤や通学、イベントにも利用されるため地元の人の利用者が多い
- ・下津井電鉄の廃線跡地であるため、廃線が一部残っている

W (弱み)

- ・公式SNSが無く、未だに知名度が低い
- ・一部、道が狭く、整備されきれてない



これまでの気づき・まとめ

フィールドワーク等の春学期の活動を通して、児島の現状や課題について実感を持つことができました。児島の代表的な場所である「ジーンズストリート」や「風の道」でも、未だに課題があることに気づくことができました。今後も、チームで何度もブレスト、SWOT分析、クロス分析を繰り返し、より良いアイデアを児島に提供できるように、秋学期も真剣にまちづくりに取り組んでいきます。

若者視点で「矢掛と児島」二つのまちづくりを考えるラボ

ラボの課題

繊維のまち「倉敷市児島」と歴史や農業資源に恵まれた「矢掛町」
二つの特徴の違う地域で、実現可能なまちづくりのアイデアを創出すること

連携先

「矢掛」矢掛町、水車の里フルーツピア 他
「児島」倉敷市、児島産業振興センター、下津井シービレッジ 他

活動報告

【児島&矢掛のフィールドワーク】

6月15日(土) 児島産業振興センターの上田さんに児島のこれまでの歴史について話を聞きました。
『児島の歴史』

児島は元々瀬戸内海に浮かぶ島でした。その為児島の、土は塩分を含むため、稲作ができませんでした。これをきっかけに、塩づくりや繊維業が盛んになり、真田紐、足袋、学生服ジーンズなどで発展してきました。

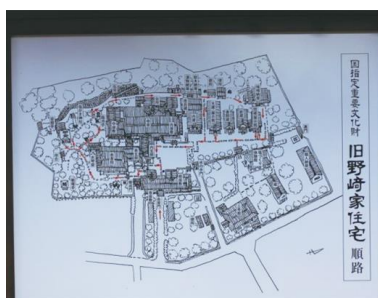
現在では、学生服は全国シェアの約7割、国産ジーンズ発祥の地になっています。

昔の児島



児島ジーンズの発展を支える。ジーンズストリート

野崎武左衛門は、1872年に岡山藩から許可を得て製塩事業に着手しました。一代で広大な塩田を開発したことから「日本の塩田王」と呼ばれました。旧野崎家では、児島発展の象徴的な存在となっています。



今後の計画

児島駅前に短大ができることで、考えられることをSWOT分析を中心に考え、現地で実際に見ることで、課題を見つけていき、児島&短大の両方が盛り上がるように取り組んでいきます。

S 学生が商品を展示	デニムが人気	W 飲食店がジーンズストリート以外では少ない	皆が学食を使えるようにする
	O 学生作品展示	T 子供が減少	若者の集客
瀬戸内海国際芸術祭が開始される			

担当教員：藤原美佳、張 善会、鷲見哲男
学生氏名 高橋・石井・三好・玉井

若者視点で「矢掛と児島」二つのまちづくりを考えるラボ

ラボの課題

繊維のまち「倉敷市児島」と歴史や農業資源に恵まれた「矢掛町」
二つの特徴の違う地域で、実現可能なまちづくりのアイデアを創出すること

連携先

「矢掛」 矢掛町、水車の里フルーツピア 他
「児島」 倉敷市、児島産業振興センター、下津井シービレッジ 他

今後の課題と計画

○課題

- ・短大移転を機にジーンズや学生服など児島らしさを再定義
- ・単発で終わらない持続的かつ、短大生も参加できるアイデアを出し、実現させる。
→倉敷短大を知らないと思案ができないと考え、短大について調べた。



地域でオリジナルジーンズを作成している。
→保育学生の実習服をデニムで作る

学食がない
→下津井タコを使った学食メニュー

卒業制作展を行っている。
→製作し展示したものを買ってもらえる仕組みを作る

○計画

- ・現地に行き学生にアンケート調査を行い分析し、現状を具体的に知ることにより児島の魅力や児島らしさを考え、思案する。



秋学期の抱負

「瀬戸大橋開通以来のビックイベント 創造のきっかけに」

倉敷短大の生徒の話を聞き、今の学生も楽しめるような案を考える
伝統的な児島の強みを活かせるような案をイメージや決めつけではなく、
科学的方法で考えていく。

担当教員：藤原美佳、張 善会、鷲見哲男
学生氏名 石田、上田、広瀬、山下

若者視点で「矢掛と児島」二つのまちづくりを考えるラボ

ラボの課題

繊維のまち「倉敷市児島」と歴史や農業資源に恵まれた「矢掛町」
二つの特徴の違う地域で、実現可能なまちづくりのアイデアを創出すること

連携先

「矢掛」矢掛町、水車の里フルーツピア 他
「児島」倉敷市、児島産業振興センター、下津井シービレッジ 他

活動報告

・フィールドワーク

【フルーツピア】

株式会社エンジョイファーム、矢掛町地域おこし協力隊、矢掛町産業観光課の方々からお話を聞きました。その後フルーツピアを解説していただきながら散策しました。



【旧矢掛本陣】

旧矢掛本陣で町並みを散策しました。旧矢掛本陣石井家を見学しました。



・ブレインストーミング・SWOT分析

フィールドワークを終えて、そこで学んだことや気付いたことを踏まえながらブレインストーミングとSWOT分析をしました。

S (強み)	W (弱み)
農業が盛ん 景観が綺麗	交通の便が悪い 知名度が低い
O (機会)	T (脅威)
外国人観光客が増加している 岡山県はフルーツを推している	倉敷美観地区のような競合相手がいる 岡山県民は交通マナーが悪い

W(知名度が低い) x O(岡山県はフルーツを推している)
= 岡山県がフルーツピアと連携してイベントやテレビの取材などで知名度を向上させる。

・エンジョイファームの嶋山さんに矢掛やフルーツピアの現状の課題やこれから必要なことについて話を聞くことができた。

気づき・今後の計画

実際に矢掛町を訪れてみて、想像していたよりも人が多く賑わいがあることが分かりました。矢掛町は宿場町にもかかわらず、観光客の大多数が日帰り客であることが惜しいと感じました。フルーツピアさんから「新しい取り組み」「農業の6次産業化」「農産物を起点とした新しい価値の創造」などの課題を提供していただきました。私たちは今後の取り組みについて若者視点からのアイデアの創出に励んでいこうと思います。

若者視点で「矢掛と児島」二つのまちづくりを考えるラボ

ラボの課題

繊維のまち「倉敷市児島」と歴史や農業資源に恵まれた「矢掛町」
二つの特徴の違う地域で、実現可能なまちづくりのアイデアを創出すること

連携先

「矢掛」矢掛町、水車の里フルーツピア 他
「児島」倉敷市、児島産業振興センター、下津井シービレッジ 他

矢掛町の課題

- ・ 新しい取り組みが必要
- ・ 農業の6次産業化は途上
- ・ 農業と人々の交流に接点を見出したい

農業の6次産業化は途上について、農業と人々の交流に接点を見出したい
この2つの課題については今後秋学期で取り組みたい

（農産物を起点とした新しい価値観）

矢掛町の解決策

イルミネーション



※イメージ図

水車の里フルーツピアでイルミネーションをする事により、矢掛町への訪問者を増やす

バスの延伸



水車の里フルーツピアへのバス路線の新規開拓

1 dayパスの導入



水車の里フルーツピアでの体験を定額で1日利用できるチケット

今後の活動例

水車の里フルーツピアではカフェのパフェを題材にした雑貨製造を始めている。このターゲット層は10代後半～20代後半なので、学生目線でこの年代への訴求方法やブランドづくりに関わり、矢掛町を盛り上げていきたい



人気のパフェ オリジナルTシャツに

担当教員：藤原美佳、張 善会、鷲見哲男
学生氏名（石田、藤元、飯山）

若者視点で「矢掛と児島」二つのまちづくりを考えるラボ

ラボの課題

繊維のまち「倉敷市児島」と歴史や農業資源に恵まれた「矢掛町」
二つの特徴の違う地域で、実現可能なまちづくりのアイデアを創出すること

連携先

「矢掛」矢掛町、水車の里フルーツピア 他
「児島」倉敷市、児島産業振興センター、下津井シービレッジ 他

活動報告

フルーツピア

株式会社エンジョイファーム、矢掛町地域おこし協力隊、矢掛町産業観光課の方々からお話を聞きました。
嶋山さんにエリア内を案内して頂き、フルーツピアの強みと、抱えている課題をそれぞれ説明して頂きました。



今後の課題と解決策

フルーツピアの課題

- ・フルーツ狩りオフシーズンの来客数の確保
- ・フルーツピアまでの交通機関が整っていない
- ・若年層の取り込み



フルーツピアの取り組み

- ・フルーツピアの強みである、カフェを使ったイベントでオフシーズンを繋ぐ
- ・プリントTなど、若年者にウケるアイテムで客層を広げる
- ・バス路線の新規開拓

気づき・今後の計画

一定量のお客さんには来ていただいています、そのお客さんの年齢層に偏りがあるという事が2箇所共通する課題だと考えました。
今後は自分たちの若さを活かし、同年代を取り込み、客層を広げることのできるアイデアの提案に力を入れていきたいと考えました。

宿場町

事前に説明していただいた見どころを元に、宿場町をグループで散策しました。
旧矢掛本陣では、ボランティアガイドの方に説明をしていただき、その時代の風景を想像することができました。



宿場町の課題

- ・宿場町にも関わらず、日帰り客が多い
- ・イベント開催時以外の来客数が比較的に少ない
- ・岡山県内でも認知度が少ない



宿場町の取り組み

- ・宿泊施設のブランド化による宿泊客の獲得
- ・イベントを定期開催し、宿場町の認知度を上げる
- ・フルーツピアとの提携により、互いに行き来できるパイプラインを作る

